

平成29年度 第2回 佐倉市立美術館運営協議会

議事録

日 時：平成30年3月4日（日） 15：00～17：00

場 所：佐倉市立美術館 4階会議室

出席者：以下のとおり

(委 員 8名)

大久保委員、田中委員、豊田委員、長澤委員、樋田委員（会長）、
広本委員、真木委員、安本委員

(美術館職員 5名)

宍戸館長、永山主査（学芸員）、本橋主査（学芸員）、黒川学芸員、
西川主事（学芸員）

会議次第

1. 開 会
2. あいさつ
3. 報告事項
 - (1) 平成29年度事業報告について（公開）
 - (2) 平成30年度事業計画について（公開）
4. 協議事項
 - (1) 購入を含めた現存作家等の作品収集方針について（公開）
5. その他
6. 閉 会

【2. あいさつ】

<館長よりあいさつ>

【3. 報告事項】

(1) 平成29年度事業報告について(資料4～5頁)

<事務局より説明>

(会長)

平成29年度事業について、報告していただきましたが、何かご意見はございますか？

(委員)

「自転車の世紀」はもっと動員数が見込めると思っていたのですが、資料の数字を見て意外に思いました。共同開催であった茅ヶ崎市と郡山市もこのような感じだったのでしょうか？

(美術館)

そうですね。当初、期待していたほどは動員数が伸びなかったようです。

(委員)

自転車のコアなファンのみが集まったという感じでしょうか？

(美術館)

今回、広報については各県に存在する日本サイクリング協会の関東圏の支部に向け、重点的にチラシ等をお送りしました。また、地元である千葉県については、理事にお会いして、直接企画展についてアピールさせていただきました。ただ、先程ご指摘があったように、コアなファンへの反響から、一般へ広がっていくまでには至らなかったのが残念ですが、これまで美術館に来たことが無い層に来館していただけたのは確かな成果であると思います。

(2) 平成30年度事業について(資料6～7頁)

<事務局より説明>

(会長)

平成30年度事業の予定について、何かご意見はございますか？

(委員)

「女子美術大学展(仮)」ですが、同校は創立何年になるのですか？

(美術館)

1901(明治34)年の創立です。

(委員)

それだけ歴史があると、ものすごい数のアーティストを輩出していると思われ
ますが、どのようにして出品作家を絞り込むおつもりですか？

(美術館)

まず、企画展の中心となるのは佐倉ゆかりの佐藤志津(1851-1919年)にまつ
わる資料ですが、現在は女子美術大学歴史資料館や順天堂大学などで調査中
です。その他の出品作家については、代表的な作家のみになると思われ
ますが、急いで作業を進めたいと考えております。

(委員)

出品作家について、佐倉出身、又は関係のある人を選択することは考えてお
られますか？

(美術館)

はい、佐倉と女子美術大学両方に関係する作家がいれば良いのですが、あまり
条件を厳しくすると、難しい面があるかもしれません。

(委員)

確かにそうですね。

(会長)

平成30年度は企画展が三つありますが、これらは企画会社が持ってきたもの
ですか？又は学芸員が一から始める自主企画なのですか？それぞれの企画展の
成り立ちを教えてください。

(美術館)

平成29年度は「自転車の世紀」が共同企画、「根付展」では企画会社が入っ
たりしましたので、平成30年度の企画展は三つとも自主企画としました。先
程「女子美術大学展(仮)」についてご指摘いただきましたが、これから大車
輪でやらなければならないと考えております。

(委員)

三つとも佐倉、房総ゆかりの企画展なのですね。意欲的な試みだと思いま
すので、是非頑張ってください。

(美術館)

ありがとうございます。

(会長)

ただ、これはまず、それぞれの企画展で結構な量の調査が必要ですね。「秋山
庄太郎展(仮)」は、権利の問題をクリアしなければならないとすると、費用
もかかるのではありませんか？

(美術館)

「秋山庄太郎展(仮)」については、企画展にあわせて詳しい年譜と文献目録を作成する予定です。また、秋山庄太郎(写真家|1920-2003年)が1960(昭和35)年にパリに赴き、浜口陽三(版画家|1909-2000年)やピエール・スーラージュ(画家|1919年-)といった芸術家との交流を深めると共に、膨大な数の写真を撮影しているのですが、それらの未公開資料についても調査する予定です。費用面については、なかなか厳しいところもあると思われますので、秋山事務所とよく相談しながら、進めてまいりたいと思います。

(会長)

権利関係について、新聞社が著作権を持っているとか、よくお調べになった方が良いでしょう。昔と違い、最近はきちんと請求される場合もあるようですから。また、残されたネガを焼く場合も、秋山庄太郎は白黒写真の焼き方に随分こだわっていたようですから、オリジナル・プリントではない旨、きちんと表記する等の配慮が必要ですね。

(委員)

来年度も美術館としては異色の企画展といえる「矢部又吉と佐倉の近代建築展(仮)」があり、楽しみにしています。ただ、この企画展において美術館としてどのようなメッセージを発信するのか明確に決まっていないと、単に矢部又吉(建築家|1888-1941年)の紹介で終わってしまうような気がいたします。この時期、千葉県内に多くの近代建築が建築されていると思われませんが、同じような銀行でも香取市にある旧佐原市街にある三菱館(旧三菱銀行|千葉県有形文化財)など、ほぼ同時期に建築されています。明治から大正にかけ、誰と誰が師弟関係であるとか、矢部又吉をとりまく建築家の相関関係を示されると分かりやすいかなと思われます。

また、洋風建築については船橋市の図書館が関連資料を沢山所蔵しておられるので、資料調査なされると良いでしょう。

広報としては、文化庁には建築関係の指定等をやっている部署がありますので、関係団体を教えてもらえるのではないのでしょうか。関東圏だと、広域財団法人の文化財建造物保存技術協会などがあります。ここには全国から勉強しに来ている人もいますので、情報拡散を狙うのであれば、良いのではないのでしょうか。千葉県にも古建築の研究グループがありますので、コンタクトをとると、思わぬ資料が出てくる可能性もあると思われます。

(会長)

女子美術大学については、誰と連絡を取っているのですか?協力者がいないと色々難しいのではないですか?

(美術館)

今は、杉並キャンパスにある歴史資料室の学芸員、相模大野にある大学美術館の学芸員と連絡を取り合っています。

また、山梨県にある葦崎大村美術館館長の大村智氏が1997(平成9)年から2014(平成26)年に女子美術大学の理事長をなさっていたことから、同館には卒業生の代表作が収蔵されています。そうした経緯から葦崎大村美術館にも協力もお願いする予定となっております。

(会長)

七月という日程を考えると、急いだ方が良くかもしれません。

(美術館)

ご指摘の通りだと思います。

【4. 協議事項】

(1) 購入を含めた現存作家等の作品収集方針について (公開)
<事務局より説明>

(会長)

では、協議事項について、説明をお願いいたします。

(美術館)

教育委員会の文化課では、以前から文化財産取得基金を活用していたのですが、この十数年は諸事情から手をつけておりませんでした。この度、文化課と協議した結果、金額の縮小はあるのですが、基金を有効活用していく方向で一致いたしましたので、この協議事項を挙げさせていただきました。

(美術館)

現在、作品収集は寄贈が中心となっておりますが、今後は購入も含めて検討していきたいと考えております。

開館当初に作品収集方針として、「日本の美術史上に多大な功績を残す」等の方針が示されていたのですが、これではまだ評価の定まっていない、若手作家にはなかなか門戸が開かれない状態でした。例えば、開館と同時に始まった「チバ・アート・ナウ」や「カオスモス」シリーズでは、その後に国内外で高い評価を受けた作家がいたにも関わらず、当館には作品が収蔵されていないという状況が続いていたのです。

今後、文化財産取得基金を有効活用するようとの話があるので、あらためてそうした作家の作品収蔵についてこの場でご協議いただき、手続きを明確にしていく上での方向性を探っていきたいと考えております。

(会長)

まず、これまでの収集方針について説明してもらえますか？

(美術館)

大きく四つに分けて考えております。

一つ目は、佐倉にゆかりのある作家で、美術史上に多大な功績を残した作家。浅井忠（洋画家 | 1856-1907年）、香取秀真（工芸作家 | 1874-1954年）、津田信夫（工芸作家 | 1875-1946年）がこれにあたりますが、当館において積極的に収集していく、柱となるような作家です。

二つ目として、佐倉・房総にゆかりのある作家、又は友好関係にあるオランダの作家で、美術史に名を残す作家。

三つ目として、浅井忠の弟子の黒田重太郎（洋画家 | 1887-1970年）であるとか、佐倉・房総ゆかりの作家を核とした周辺作家で美術史上に名を残す作家など。

四つ目として、佐倉美術協会など、佐倉の美術振興に寄与した作家。

となっております。

(会長)

多少、曖昧なところが無い訳ではありませんが、概括的に考えると、おおよそこの美術館が収集すべき内容を言い切っているといえるかもしれません。そうした中で新たな傾向の作家を入れるべく、収集方針を協議していきたいという趣旨ですね。委員の皆様、先程説明のあった既存のグループ分け以外に作品収集する場合、どのような視点を持って、どのような手順で進めていけばよいのか、アイデアがありましたら、是非ご提案いただきたいと思います。

(委員)

ここで開催しておられた「チバ・アート・ナウ」（1994-2002年に9回開催）までさかのぼって、その出品作家の中で現在も活躍している作家の作品は今のうちに押さえておくの良いかもしれません。基本的な条件としてはまず、ミュージアム・ピースというか、その作家の代表作であることでしょうか。

また、現在の日本ではあまり見かけず、コレクションとして欠けていると思われるのはオランダの現代美術です。オランダの著名な前衛芸術運動「コブラ」に参加していたカレル・アペル（画家 | 1921-2006年）らの作品はまだ安く手に入るのではないのでしょうか？この美術館ではオランダにちなんだ企画展もなさっているのです、そのあたりを狙っても良いかもしれません。

(委員)

この美術館では「チバ・アート・ナウ」や「カオスモス」(2003年より5回開催)を定期的で開催してこられたわけですね。一回ここに展示したアーティストの作品については企画展終了後、良いものを精査して収蔵しても良いと思います。この美術館はこれまでにそれが無さ過ぎたのかもしれませんが。

先程説明のあった分類で言うと、四つ目にむしろ「現代」とはっきり明記してよいのではないですか。若い作家にとってはパブリックコレクションになる訳ですから、奨励という意味にもなりますしね。せっかく良い作家を集めておられるのですから、そういう基金があつて購入が出来る、ということであれば、積極的に活用なさったら如何でしょうか？

(会長)

この美術館で一度企画展の中で取り上げた作品の中から選んで購入していく、という方法ですね。それは美術館ではよくある考え方だと思われます。他の委員の方は如何ですか？

(委員)

例えば今、浅井忠がマーケットに出てきたら、かなり高額だと思われますし、この美術館においては量的にもう十分に蓄積があるように思われます。関連する作家についても同様の状況に見受けられますので、慌ててお金を使う必要はないと思われます。むしろこの辺で一度、現代美術の方へ眼を向けられたら良いのではないのでしょうか？

(会長)

博物館において、歴史的な文脈の中で主流になっているものとなっていないものがあると思われますが、なっていないけれど面白いものを収集しようとする場合、どのような手法をとられていますか？

(委員)

その美術館なり博物館が世間の評価に関係なく、積極的にその分野に光を当てようとするかどうかではないかと思われます。それが公的な施設の役割ではないのでしょうか？先日、私が所属する博物館において現代作家の作品が収集されました。外部の委員会にかけるとはありませんでしたが、館内でどのように考えるのか？という話しは行われます。

(委員)

収集については、その時に収集しないともう二度と集まらない、というケースがあります。散逸してどこに行ったか分からない場合もありますが、後になって探しても手の届かないほど、高額になっている場合も考えられます。基本的な考え方としては、精査した上で予算の範囲内であれば、購入出来るときに購入しておくことに越したことはないと思われます。

(会長)

この会議には、実際に作品を制作する先生方もおられますので、是非ご意見をいただきたいと思います。

(委員)

作家である私の父は市川に住んでおりましたが、佐倉に工房があったご縁で作品3点がこの美術館に寄贈されています。私としては寄贈とか購入とか、お金の問題ではなく、私は父の代表作がこうしてきちんとしたところに收藏されていることがありがたいと思っています。家にあると家族しか見られないし、いずれ私たちがいなくなったら、作品がどうなってしまうか不安に感じたりもしていたのです。

また、この美術館に何度も足を運んでいる人とお話する機会があるのですが、「ここの收藏作品展って、いつも浅井忠ですね」って言われることがあります。企画展は別として、リピーターの人は收藏作品展で一番目に分類されている作家が出品していると、作品が違っても「また」って思ってしまうようなのです。そういう状況の中、一番目に分類される作家の作品1点に予算のほとんどをかけるのであれば、これまでに收藏されていないジャンルの作品を購入するのは良いのではないかと思います。ただ、この美術館が何を中心として考えているのか、方針をきちんと持っていることも重要だと思います。

(会長)

「チバ・アート・ナウ」に出ているような現代美術の分野については、どう思われますか？

(委員)

それは良いと思います。收藏作品展に出品される作品の傾向がバラエティに富んでいる方が鑑賞者にとっては興味をそそりますよね？また「收藏作品展がいつも同じですね」と言われるよりは良いのではないかと。

(委員)

ちなみに、この美術館に書道は何点くらいあるのですか？

(美術館)

多くはありませんが、約30点所蔵しております。

(委員)

書道協会には、佐倉の美術振興に寄与した作家も沢山おられます。佐倉にちなんだ書道家についても残していただければ、という思いはあります。

(会長)

この美術館で行われている「カオスモス」はかなり視点を絞り込んだ企画展となっていますが、一方で広い視野を持って、地域に根差した若手作家を育成し

ていくような企画展もあると思われます。こうした企画展に関わった方はおられますか？

(委員)

先程、「チバ・アート・ナウ」で取り上げた作家を購入しては如何ですか、と申し上げましたが、人気作家については既に価格が数倍以上に膨れ上がっているかもしれません。その場合は今後、「カオスマス」が開催された時、毎年1点ずつ位、購入されるというのは如何でしょうか？

(会長)

分かりやすいですね。例えば、これまでに企画した中から作品を美術館に収集する場合、どういう趣旨の企画展を開催し、収集へと話を進めたのですか？

(委員)

私の経験では、現代美術の企画展であれば、あるテーマやコンセプトを立てた上で作家を厳しく選抜します。そして企画展終了後に優れていると思われる出品作品を皆で議論し、更に絞り込んでいく、というごく一般的なプロセスを経て購入作品を決定していました。そうした場合には、1点購入1点寄贈というケースもあります。そこは柔軟に考えても良いと思います。

10年、20年と経過してもものすごく有名になる作家もいますし、中には消えてしまう作家もいます。この美術館で開催されている現代美術展は良い作家選択をしているなという印象があります。そうした作家の作品が企画展終了と同時に美術館から全て無くなってしまうことは以前から気になっていました。収集方針の変更が少しでも出来るようであれば、もう少し現代美術にも配慮してもよいのではないかと考えています。

(委員)

かつて千葉県にも資料購入費があったように各館、開館時にはあるのですが、先細りになっていく感じですね。この美術館のように基金を使うことが出来るのなら、複数年度に渡る計画を立て、何回かに渡って購入についてお考えになるのが良いのではないのでしょうか。その間に良い作品が出てくることもあるかもしれません。この件については、館長と学芸員だけでなく、事務方も含め、美術館全体で共通理解を得ておくことも肝要かと思われます。

(会長)

まとめとしては、収集方針の中に現存作家による現代美術が含まれていないことから、今後はこれからは切り開こうとする新しい傾向の作品にも目配りしていく、ということ収集方針に書き込むことが一つ、また、そうした作品が突然、美術館に収集されるのではなく、何らかのテーマを持った企画展を開催し、お客様の眼をとおした上で、この運営協議会にかけるという手続きでよろ

しいですね。また、オランダの現代作家や書道についてもご意見をいただきましたので、今後どのようにしていくか、よく話し合ってください。

(美術館)

はい。

【5. その他】

(美術館)

※平成29年度第1回の運営協議会において、「複数年度に渡る事業開催について、私立美術館や国立美術館の事例を調べ、どのような利点があるか、まとめて下さい。」という検討事項をいただきました。

まず、国立美術館については、「東京国立近代美術館」、「国立新美術館」、「国立国際美術館」に問い合わせました。まず、利点については、「花見等にぎわう時期に開催することで集客力が上がるため、月曜日も開館している。」、また、「ゴールデンウィークの連休に合わせて、新聞社、放送局等の大型の共催展が入りやすい。」等の回答がありました。

また、私立美術館には関東圏の2館に問い合わせました。利点については、「会期の調整が行いやすい。」、「兩年度の予算を使うことが出来る（少額予算の合算、又は大型予算化）」が挙げられた反面、「以前は企画展の前半と後半で二つに分けて会計処理をしていたが、会計上は二つの事業となるなど、実態とそぐわない不自然な状態となった。現在は3月から4月中旬まで、貸館として提供している。」という欠点も提示されています。

当館としては当座、複数年度に渡って企画展を開催する場合は、以前の運営協議会でご指摘を受けた「オランダ美術」等の大規模な企画展を開催する場合に限定しようと考えております。その開催にあたっては前年度から各部署に「動員数が見込める」等の説明をしっかりとっておき、理解を得ておくことを前提といたします。

(会長)

この件について、何かご意見がありますか？

(委員)

会計処理が複数年度に渡って一貫性がとりにくかったという回答がありました。が、「企画展」として枠で見れば、一貫性があると思われ。そういう形で説明すれば、相手も理解しやすいかもしれませんね。

(美術館)

そうですね。人が集まる時期ですから、歳入も見込めますし、前向きに考えたいと思います。

(会長)

では、この件については美術館の回答を元に工夫していただくということでは、よろしいですね。他になければ、会議次第はここで終了とさせていただきます。

【閉 会】